

談話会通信 No.26

東京クモ談話会

通信内容

- | | |
|----------|---|
| 冬の観察・採集会 | 1 |
| ワクドツキシグモ | 3 |
| 編集局について | 6 |

あけましておめでとうございます。今年も楽しい通信がおとどけてきますよう、通信係一同が心はりますのでよろしくお頼りいいたします。

1ページ目は白ページです。今年の皆さんのがん目標を書かれてはいかがでしょう。



冬の観察・採集会 2月18日(日)

日時：2月18日 午前10時15分集合

集合場所：西武秩父線 高麗(こま)駅

観察採集場所：中畠田(さんちやくでん)

持ちもの：昼食・採集用具・軍手 筆記用具
長ぐつが便利です。

* 八高線は八王子発 9:21 が良い

ようですが。そのあとは 10:30 になります。

* 雨天決行

* 連絡先 島田順一

TEL. 04297-3-3022

交通

・新宿 → 所沢 → 高麗
(ハリカえ) 線

・八王子 → 東飯能 →
(ハリカえ)

* 高麗駅は東飯能の
次です。

きまぐれホスト

► クモクモ クイズ 次の□にクモの名を入れてみましょう。
どんな名が入るでしょうか。

①
 ユ イ グ モ
②
 グモ のなかま
③
 グヌカクモ
④ ニノ ボウ ズネクモ⑤
 ナシヒ グモ
⑥ ハエトリ⑦
 アカムネグモ
⑧ ⑨ アカムネグモ⑩

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	グモ
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	グモ

* 答えは3月号の
きまぐれホストに
あります。

周围都是戈壁，573公里到113。115里“人”字形跨过黑河，过黑河便进入蒙古国境内。

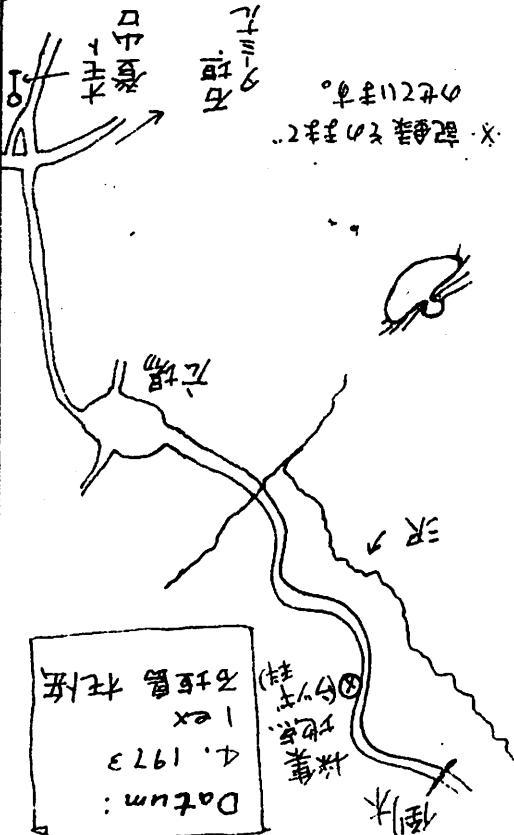
28卷之2. 生生志。
後16年間研究所2. 國外2.
在蘇10. 擬蘇聯2. 仁威2.
半島2. 又由之2. 土庫2.
北洋2. 1935年2. 「
昌黎縣立農業試驗場」

5.5倍乙丙共聚物。
乙丙共聚物(乳液法) 体质型
丙稀。5%水溶性二十二酮的乙丙。一
丙稀。体质型33%丙稀乙丙。
丙稀。体质型33%丙稀乙丙。
丙稀。体质型33%丙稀乙丙。
丙稀。体质型33%丙稀乙丙。
丙稀。体质型33%丙稀乙丙。

•第十一章 論文摘要

卷之三

卷之三



(1) メモの手帳
2011年1月25日(木) 晴れ

1月 N.26

最も大きいクモは……

南アメリカ北部にいる鳥を食べる
といらトリクイフ"モ科のクモである。
雄で、いっぽいに伸ばした足の長さ
が25cm、体の長さが8.9cm
というのが1925年4月にフラン
ス領ギニアのモンタニュ・ラ・ガブリ
エルでとれた。その重さは59g
近くあった。体重のいちばん重か
ったクモは、1945年にブラジル
のマナオスでとれた雌のドクグ"モ
である。足の先から先までの長さ
が241mmで、重さは85gも
あった。

最も小さいクモは……

西アフリカにいるヨリメフ"モ科のハ
ウ・マルフ・レシ"である。1956年
1月にマロレケ・ウホル近郊の標
高10mの沼沢地で捕えられ
た雌は、足の先から先まで0.43
mm、体の長さは、その半分だった。

最も有毒なクモは……

世界一強い毒をもつクモは、アリ
カの「クロコケク"モ」である。この
種のクモの雌は足の先から先ま
での長さが6.35mmあり、かまれ
ると人間が死ぬこともあります。
本当に死んだ人はまれてある。
他命にかかる程の毒を
といわれているのは、オーストラ
にいるジョウコケ"モ科の
トランクス・ロバストス"オースト

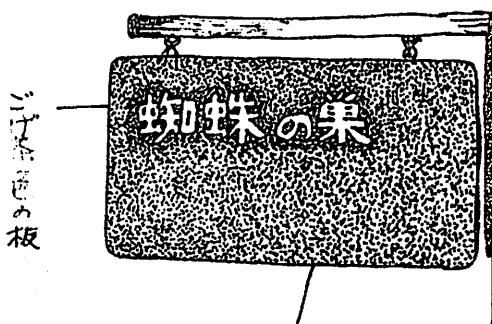
ラリアとニュージーランドにいるヒメグ"
モ科のトロテクス・ハセルティン
南アフリカの同じくヒメグ"モ科の
トロテクス・インディスティンクトス"
アルセニチンの「ホ・タドラ」、メリ
カ中・南部の「ロクソスケレス・
レクルサ」等がいる。

(キネスブック 1978年度版)

P.56~P.57より。

►喫茶店

"蜘蛛の巣"でござる!



入り口に出ています。

といってもこれは、テレビのお話、
金曜夜9時"熱中時代"という
小学校の先生が主人公となっている
番組の中にある店です。

入り口に上の図(?)のようなかん
ばんが出ています。色はニゲ茶色
で、白い字で"蜘蛛の巣"と
書いてあります。毎回出てくるよ
うです。…たれかこのようなお店
をつくりませんか……。

一月 26

► 小沢 寒樹 による ファーブル 昆虫記の一節です。みる人 読本人によつて
すいばんちからものですね。どちらが お好きですか。

太陽が庭の二の地點に射しかかると、一
群の群の一方は非常にせかめ立つ。頭部
飾りある仔蜘蛛たちは、今、一匹、次々に
花茎に攀登する。その頂上に達する。
中略 一 仔蜘蛛たちの間をかいり、一匹
出發する。彼等は突然躍進して跳び出
飛び立つと云ふ。彼らの飛行は、
翅を備へぬる者と云ふ。飛出
（アリ）山田吉彦著文庫 昭和 2 年 1 月 2 日 翻行
譯者山田吉彦著文庫 昭和 2 年 1 月 2 日 翻行

太陽が庭の二の地點に射しかかると、一
群の一方は非常にせかめ立つ。彼らもたち
は身體を垂れ下げる。今、一匹、一匹に花茎にさ
る。その頂上に達する。 中略 一
そぞらたちの間をかいり、一匹ずつ出發する。
彼等は突然躍進して跳び出る。あるいは飛立
する。飛び出の翅と身は、2 1 3 4 5
（アリ）山田吉彦著文庫 昭和 2 年 1 月 2 日 翻行
譯者山田吉彦著文庫 昭和 2 年 1 月 2 日 翻行

